

『当事者や親の知る権利についてのアンケート調査』概要

調査対象:

学校等(保育施設、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)の事故・事件で、学校に行けなくなる、心身に障害を負う、死に至るなど重大な被害を受けた当事者や家族。

調査方法:

1家族1部を、ジェントルハートプロジェクトに参加の遺族や全国学校事故事件を語る会、全国柔道事故被害者の会などを通じて、該当者にアンケート用紙と返信用封筒を直接配布もしくは郵送。

回収は郵送もしくは手渡し。

約110部配布し、**有効回収数51部**(約46%)。

回答について、記入もれや矛盾点、不明点は記入者に電話もしくは面談で確認。

調査期間:

2010年2月から9月にかけて配布。2010年10月4日までに回収。

調査目的:

1. 『知る権利』に焦点を当て、学校等で事故・事件にあった当事者や親の置かれている現状を明らかにすること。
2. 事故・事件が起きてしまったとき、行政や学校等はどのような対応をとるべきなのか、被災者の視点を把握すること。
3. 上記2点の結果をふまえ、
 - 3-1. 当事者や親が直面している問題を社会に発信する
 - 3-2. 組織や制度の不備を検証し、行政や学校等が取るべき対応を被災者の立場から提言し、改善につなげる

アドバイス及び集計・分析:

常磐大学大学院被害者学研究科 スーパーバイザー 小林 麻衣子氏

調査者:

NPO法人ジェントルハートプロジェクト

代表 小森新一郎

調査担当 理事 武田さち子

公式サイト <http://npo-ghp.or.jp/>

『当事者や親の知る権利についてのアンケート』

NPO法人ジェントルハートプロジェクト
紹介者（団体）（ ）

※選択式の場合、指示に従って、単数回答の場合は○を1つだけ、複数回答の場合は該当するものすべてに○をつけて下さい。（ ）内は具体的に記述をしてください。

Q1. 記入者について。複数名いる場合、主たる1名を記入してください。

- 1-1. 記入者氏名（ ）
1-2. 被災者との関係 a. 被災者（本人） b. 父 c. 母 x. その他（ ）

Q2. 被災当時、所属していた学校について、項目ごとに該当するもの1つに○をしてください。

- 2-1. 管理責任者について
a. 都道府県立 b. 市区町村立 c. 国立 d. 私立 x. その他（ ）
- 2-2. 当該事故・事件が発生した学校の所在地（都道府県名）（ ）
- 2-3. 学校等の種別について
a. 保育園・保育所 b. 幼稚園 c. 小学校 d. 中学校 e. 高等学校 f. 専門学校 d. 大学
x. その他（ ）

Q3. 主な被災時期について、西暦年月と被災者の学年・年齢を教えてください。

- 3-1. 主な被災時期 年 月頃 ～ 年 月頃
- 3-2. 学年・年齢 年生（ 歳） ～ 年生（ 歳）

Q4. 被災者の最終的な被害状況について。

- 4-1 最も大きな被害1つに○をしてください。（単数回答）
a. 不登校・転校 b. 肉体的後遺症 c. 精神的後遺症 d. 死亡（自殺を除く） e. 自殺
x. その他（ ）

4-2 医師による診断名などありましたら、お書きください。

Q5. 被災原因の主なもの1つに○をしてください。（単数回答）

- a. 中毒 b. 熱中症 c. 溺水 d. 転落 e. 衝突 f. 病気 g. 運動中の負傷・障がい
h. 生徒同士の有形暴力 i. 生徒同士の精神的暴力
j. 教師・指導者からの有形暴力（体罰・わいせつ行為等を含む）
k. 教師・指導者からの精神的暴力（いじめ・指導等を含む）
l. 原因不明 x. その他（ ）

Q6. 被災時の状況について。

- 6-1. 主なものに○をしてください。（複数回答）
a. 各教科等 b. 特別活動（学校行事を除く） c. 学校行事
d. 課外指導（部活動・クラブ活動等） e. 休憩自由時間・放課後 f. 寄宿舍
g. 保育中 g. 帰宅後 h. 不明
x. その他（ ）

6-2. そのうち最も当てはまる状況1つをアルファベットで教えてください。（単数回答）

8-5. 学校関係者からの事故や事件についての説明や報告はどのような形でありましたか？

該当するものすべてに○をしてください。(複数回答)

- a. 被災者や家族に口頭で
- b. 被災者や家族に文書で
- c. 学年集会や全校集会で児童生徒に
- d. 各クラスで児童生徒に
- e. プリントで児童生徒と保護者に
- f. 電話連絡で保護者に
- g. クラスや部活動など関係する保護者を集めて
- h. 緊急保護者会を開いて全体に
- i. 記者会見を開いてマスメディアに
- x. その他 ()
- y. 自分たち以外にどのように説明したかわからない

8-6. 学校・教育委員会の説明や報告(説明や報告がなかったことも含む)は、あなたにとって納得できるものでしたか？ (単数回答)

- a. 納得できた
- b. 少しは納得できた
- c. どちらともいえない
- d. あまり納得できなかった
- e. まったく納得できなかった
- x. その他 ()

8-7. そう思うのはなぜですか？

Q9. 学校や教育委員会の事実調査について。

9-1. 学校は児童生徒に、事故・事件についてアンケートを実施しましたか？ (単数回答)

- a. した
- b. 直接は関係のない内容で行った
- c. しなかった (→Q9-3 へ)
- d. 不明 (→Q9-3 へ)

9-2. 学校はアンケートの回答内容を教えてくださいましたか？ (単数回答)

- a. 内容を見せた
- b. 内容を一部見せた
- c. 口頭で説明した
- d. 教えてくれなかった
- e. のちに内容を知った(方法)
- x. その他 ()

9-3. 学校は児童生徒に、事故・事件について作文を書かせましたか？ (単数回答)

- a. 書かせた
- b. 直接は関係のない内容で書かせた
- c. 書かせなかった (→Q9-5 へ)
- d. 不明 (→Q9-5 へ)

9-4. 学校は作文の内容を教えてくださいましたか？ (単数回答)

- a. 内容を見せた
- b. 内容を一部見せた
- c. 口頭で報告した
- d. 教えてくれなかった
- e. のちに内容を知った(方法)
- x. その他 ()

9-5. 学校や教育委員会はアンケートや作文のほかにどのような調査をしましたか？ (複数回答)

- a. 児童生徒に情報の提供を呼びかけた
- b. 児童生徒に面談調査を行った
- c. 知っていそうな児童生徒に聞き取り調査を行った
- d. 学校管理職や教育委員会の人間が、関係する教職員に聞き取り調査を行った
- e. 教職員や児童生徒による再現を行った
- f. 外部の人間による調査チームを立ち上げた
- x. その他の調査 ()
- y. どのような事実調査をしたかわからない
- z. 調査を一切しなかった

9-6. 学校・教育委員会は調査にあたって、被災者や親の意見を取り入れてくれましたか？
(単数回答)

- a. 十分取り入れた b. 少しは取り入れた c. どちらともいえない
d. ほとんど取り入れなかった e. 全く取り入れなかった

Q10. 学校・教育委員会の事実調査について。

10-1. あなたは適切に行われたと思いますか？ (単数回答)

- a. 適切だと思う b. ほぼ適切だと思う
c. あまり適切だと思わない d. 不適切だと思う e. わからない

10-2. そう思うのはなぜですか？

Q11. 学校等が作成した事故報告書について。

11-1. 内容を知っていますか？ (単数回答)

- a. 書類を見た b. コピーを持っている c. 実物は見ていないが内容は聞いている
d. 存在は知っているが、内容は知らない (→Q12 へ)
e. あるかどうか存在さえ知らない (→Q12 へ)
x. その他 ()

11-2. 事故報告書を見たり、コピーを手に入れたひとは、どのようにして見たり、手に入れたりしましたか？

11-3. 事故報告書は事実を正確に書かれていると思いますか？ (複数回答)

- a. 正確に書かれてると思う b. 重要な情報が抜け落ちていた
c. 一部にうそが書かれていた d. 書かれていることの大部分がうそだった
e. 黒塗りが多く内容がほとんどわからない
x. その他 ()

Q12. 当該事故・事件が、統計上の処理について。

12-1. 統計上、どのように処理されたかを知っていますか？ (単数回答)

- a. 知っている
b. 知らない (→Q13 へ)
x. その他 ()

12-2. その内容は、あなたが認識している事実や原因と一致していますか？ (単数回答)

- a. 一致している b. ある程度一致している c. どちらともいえない
d. あまり一致していない e. まったく一致していない
x. その他 ()

12-3. 一致していない場合、どこがどのように一致していないのかを教えてください

統計上では _____ とされているが

私は _____ と思っている

- Q13. 事故報告書について、あなたが望むことはなんですか？（複数回答）
- a. 私学も、自治体や教育委員会等に事故報告書の提出を義務づけてほしい
 - b. 教育委員会や保健会社等に報告書を提出する前に、被災者や親に見せてほしい
 - c. 事故報告書に、被災者や親の言い分を載せてほしい
 - d. 事故報告書に、加害者の意見や心情を載せてほしい
 - e. 報告内容に疑問があれば、質問し回答を義務づける仕組みをつくってほしい
 - f. 後からでも正しい情報がわかったときに、いつでも訂正できるようにしてほしい
 - g. 情報公開制度を使わなくても、被災者や親にコピーを渡してほしい
 - h. 被災者や親に対して、黒塗りをやめて、全ての情報を開示してほしい
 - i. プライバシーに配慮したうえで、誰もが事故報告書の内容を見られるようにしてほしい
 - x. その他（ ）
 - y. 望むことは何もない

- Q14. 事故・事件について、あなたが知りたかったことは何ですか？（複数回答）
- a. その時の被災者の様子
 - b. その時の教職員の対応
 - c. その時の加害者・責任者の心理
 - d. 事故・事件に至るまでの経緯
 - e. 事故・事件が起きた直接の原因
 - f. 事故・事件が起きた背景や遠因として考えられること
 - g. 事故・事件は誰に責任があるか
 - h. 事故・事件後に加害者・責任者が心から反省しているかどうか
 - i. 事故・事件の具体的な再発防止策
 - x. その他（ ）
 - y. 知りたいことは何もない

- Q15. あなたは当該事故・事件について最終的に（現段階で）、どの程度知ることができたと思いますか？（単数回答）
- a. ほとんど知ることができた
 - b. 少しは知ることができた
 - c. ほとんど知ることはできなかった
 - d. まったく知ることはできなかった
 - e. わからない
 - x. その他（ ）

Q16. 当該事故・事件の情報について。

- 16-1. あなたは情報をどこから得ましたか？（複数回答）
- a. 被災者本人の話
 - b. 学校からの説明
 - c. 教育委員会からの説明
 - d. 警察関係者からの説明
 - e. 医療関係者からの説明
 - f. 調査委員会からの説明
 - g. 教師の個人的な話のなかで
 - h. 見たり聞いたりした児童生徒の話
 - i. 児童生徒のアンケートや作文
 - j. 他の児童生徒の保護者からの話
 - k. 学校等が行った実況検分
 - l. 学校の事故報告書
 - m. マスメディア
 - n. 情報公開でとった事故報告書以外の書類（具体的に）
 - x. その他（ ）

- 16-2. 上記のうち、もっとも有効だった情報源上位3つまでを上記アルファベットでお答えください。（複数回答）

Q17. 事実を知るうえでの障害について。

17-1 事実を知るうえで、障害になったのは何ですか？（複数回答）

- a. 学校管理者の拒否や抵抗
- b. 教育委員会の拒否や抵抗
- c. 関係する教師の拒否や抵抗
- d. 教職員全体の拒否や抵抗
- e. 関係する児童生徒の拒否や抵抗
- f. 関係する児童生徒の保護者の拒否や抵抗
- g. 周囲の児童生徒の拒否や抵抗
- h. 保護者らの拒否や抵抗
- i. 学校関係者らによる誹謗中傷
- J. 地域住民の批判や誹謗中傷
- k. 卒業生らの批判や誹謗中傷
- l. 外部団体からの圧力（具体的に_____）
- x. その他（_____）

17-2. このうち、最も障害になったものは何ですか？

1つだけ上記アルファベットでお答えください。（単数回答）

Q18. 刑事告訴について。

18-1. あなたは当該事故・事件について、刑事告訴しましたか？（単数回答）

- a. した
- b. しなかった
- c. 検討中

18-2. その主な理由は何ですか？

18-3. 刑事告訴した場合、誰を訴えて、その結果はどうなりましたか？

誰を _____ 訴えて
結果は _____

Q19. 民事裁判について。

19-1. あなたは当該事故・事件について、民事訴訟を起こしましたか？（単数回答）

- a. しなかった（→19-2へ）
- b. した（現在、終わっている）
- c. した（現在、係争中）（→19-3へ）
- d. 検討中（→19-3へ）

19-2. 裁判をしなかった主な理由は何ですか？（複数回答）（→Q20へ）

- a. 裁判をする必要を感じなかった
- b. 学校や加害者から補償があったので
- c. 学校や加害者が責任を認めて謝罪したので
- d. 経済的に難しかった
- e. 引き受けてくれる弁護士が見つからなかった
- f. きょうだいへの影響を考慮して
- g. 仕事や家庭への影響を考慮して
- h. 家族や親戚の反対にあった
- i. 精神的に裁判ができる状態になかった
- j. 裁判ができるだけの証拠を揃えることができなかった
- k. 裁判をしても勝てないと弁護士に言われた
- l. 裁判をしても無駄だと思った
- x. その他（_____）

19-3. 裁判をした（検討している）主な理由は何ですか？（複数回答）

- a. 何があったか事実を知りたかった
- b. 誰に責任があるのかを明らかにしたかった
- c. 責任者・加害者から謝罪がなかったから
- d. 被災者の名誉を回復したかった
- e. 原因を究明し、再発防止に生かしたかった
- f. 世間に、当該事故・事件のことを知ってほしかった
- g. 被災者の治療や今後の生活等に於ける保証金・賠償金がほしかった
- x. その他（_____）

19-4. 裁判をするにあたって、とくに困難だったことは何ですか？（複数回答）

- a. 弁護士探し
- b. 弁護士との意思疎通
- c. 家族の理解
- d. 裁判にかかる費用
- e. マスメディアに騒がれた
- f. 誹謗・中傷を受けた
- g. 証拠集めに苦労した
- h. 証言をしてくれるひとがなかなか見つからなかった
- i. 支援してくれるひとがいなかった
- j. 仕事に影響した
- k. 裁判準備で忙しかった
- l. 裁判をすることで精神的に不安定になった
- x. その他（ ）

19-5. 裁判を起こした結果はどうになりましたか？

- a. 地裁で 勝訴 一部認容 棄却 和解
- b. 高裁で 勝訴 一部認容 棄却 和解
- c. 最高裁で 勝訴 一部認容 棄却 和解
- x. その他（ ）

19-6. 裁判をしてプラスになったことは何ですか？

19-7. 裁判をしてマイナスになったことは何ですか？

19-8. 裁判の結果、あなたの目的は達成されましたか？（単数回答）

- a. 十分達成
- b. 少しは達成
- c. どちらともいえない
- d. ほとんど達成されない
- e. 全く達成されない

19-9. そう思う理由は何ですか？

Q20. 外部機関による調査について。

20-1. 当該事故・事件に外部の調査機関の関与はありましたか？（単数回答）

- a. あった（→20-2へ）
- b. なかった（→20-5へ）
- c. わからない（→20-5へ）

20-2. 関与があった場合、どのような調査機関でしたか？（複数回答）

- a. 学校・教育委員会が依頼した学識経験者・有識者を中心とする調査機関
- b. 法務省管轄の調査機関
- c. 弁護士会の調査機関
- d. 被災者が依頼したオンブズパーソン
- x. その他（ ）

20-3. あなたは外部機関による調査やその結果に満足していますか？

(複数の調査機関の関与があり満足度が違う場合には、機関のところに上記アルファベットを記入)

- 機関 () a. 満足 b. まあ満足 c. どちらともいえない d. 少し不満 e. 大いに不満
x. その他 ()
- 機関 () a. 満足 b. まあ満足 c. どちらともいえない d. 少し不満 e. 大いに不満
x. その他 ()

20-4. そう思う理由は何ですか？

20-5. 第三者による調査委員会や調査機関をつくるとしたら、あなたにとって重要なことは何ですか？ (複数回答)

- a. 委員会メンバーの中立性
- b. 教師への聴き取り (権限)
- c. 児童生徒への聴き取り (権限)
- d. 被災者や親の意見を取り入れること
- e. 結論に強制力があること
- f. 被災者に情報開示すること
- g. 社会に情報開示すること
- h. 再発防止の提言をすること
- i. 調査経緯や結論に対する質問や不服申し立てができること
- j. 学校や教育委員会からだけでなく、被災者からも調査依頼ができること
- x. その他 ()

20-6. あなたは第三者による調査委員会や調査機関を必要だと思いますか？ (単数回答)

- a. 必要
- b. 条件を整えば必要
- c. どちらともいえない
- d. 条件が整わないのであれば、ないほうがよい
- e. 不必要
- f. わからない
- x. その他 ()

20-7. そう思う理由は何ですか？ 条件があれば、条件についてもお書きください。

Q21 事故・事件後の対応について、学校や教育委員会、国等にあなたが一番望むことは何ですか？

■ご協力ありがとうございました。 問い合わせや結果報告のために連絡先をお知らせください。

お名前

ご住所 〒

電話・fax

メール

アンケートの集計結果

Q1-2. 被災者との関係

母親が6割強である。

	度数	パーセント
被災者（本人）	1	2.0
父	18	35.3
母	32	62.7
合計	51	100.0

Q2-1. 被災当時の管理責任者

市区町村立が最も多く21件（41.2%）、次いで都道府県立16件（31.4%）、私立13件（25.5%）、国立1件（2%）

	度数	パーセント
都道府県立	16	31.4
市区町村立	21	41.2
国立	1	2.0
私立	13	25.5
合計	51	100.0

Q2-2. 当該事故・事件が発生した学校の所在地（上位5位までの都道府県）

	度数	パーセント (N/51)
埼玉県	9	17.65
神奈川県	7	13.73
東京都	5	9.80
兵庫県	5	9.80
福島県	3	5.88

Q2-3. 学校等種別

高等学校（43.1%）と中学校（33.3%）で8割近くを占める。

	度数	パーセント
保育園・保育所	1	2.0
小学校	8	15.7
中学校	17	33.3
高等学校	22	43.1
専門学校	1	2.0
大学	1	2.0
その他	1	2.0
合計	51	100.0

Q2-3. 学校等の種別と学校種別のクロス表

			学校種別		合計
			国公立	私立	
Q2-3. 学校等の種別について	保育園・保育所	度数	1	0	1
		総和の %	2.0%	.0%	2.0%
	小学校	度数	7	1	8
		総和の %	13.7%	2.0%	15.7%
	中学校	度数	14	3	17
		総和の %	27.5%	5.9%	33.3%
	高等学校	度数	14	8	22
		総和の %	27.5%	15.7%	43.1%
	専門学校	度数	1	0	1
		総和の %	2.0%	.0%	2.0%
	大学	度数	0	1	1
		総和の %	.0%	2.0%	2.0%
	その他	度数	1	0	1
		総和の %	2.0%	.0%	2.0%
	合計	度数	38	13	51
		総和の %	74.5%	25.5%	100.0%

Q3-1. 被災時期

被災時期の幅は、1992年が最も古く、2009年が直近である。平均値は2003年であった。

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q3-1. 主な被災時期(開始年)	49	1992	2009	2003.10	4.331

	度数	パーセント
1992	1	2.0
1994	3	6.1
1998	3	6.1
1999	2	4.1
2000	5	10.2
2001	3	6.1
2002	2	4.1
2003	4	8.2
2004	3	6.1
2005	6	12.2
2006	5	10.2
2007	5	10.2
2008	3	6.1
2009	4	8.2
合計	49	100.0

Q3-2. 学年・年齢

被災時の学年の幅は小1から大2まで(平均学年は中2)

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q3-2. 開始学年	49	1	14	8.41	3.135

高1が最も多く、10件(20.4%)。高2(8件,16.3%)、中1(7件,14.3%)が続く。

	度数	パーセント
小1	3	6.1
小2	1	2.0
小3	2	4.1
小5	2	4.1
小6	1	2.0
中1	7	14.3
中2	4	8.2
中3	6	12.2
高1	10	20.4
高2	8	16.3
高3	4	8.2
大2	1	2.0
合計	49	100.0

年齢で見ると、4歳から20歳までとなる（平均年齢13.7歳）

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q3-2. 開始年齢	50	4	20	13.68	3.461

15歳が最も多く12件で24%を占める。

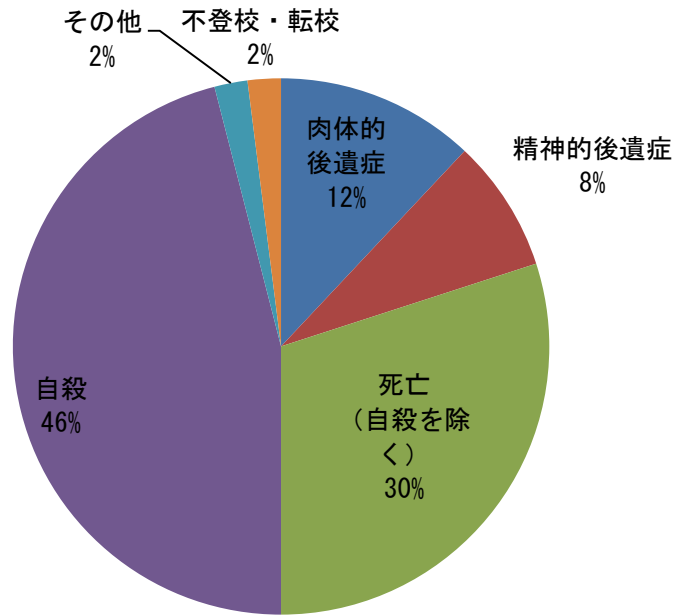
	度数	パーセント
4	1	2.0
6	3	6.0
8	3	6.0
10	1	2.0
11	1	2.0
12	3	6.0
13	7	14.0
14	3	6.0
15	12	24.0
16	7	14.0
17	8	16.0
20	1	2.0
合計	50	100.0

Q4-1. 最も大きな被害

自殺が約半数を占める（23件, 46%）。次が自殺を除く死亡で（15件, 30%）、被害者・被災者がなくなっているケースが約75%を占める。

	度数	パーセント
不登校・転校	1	2.0
肉体的後遺症	6	12.0
精神的後遺症	4	8.0
死亡（自殺を除く）	15	30.0
自殺	23	46.0
その他	1	2.0
合計	50	100.0

Q4-1. 最も大きな被害（度数, % : n=50）



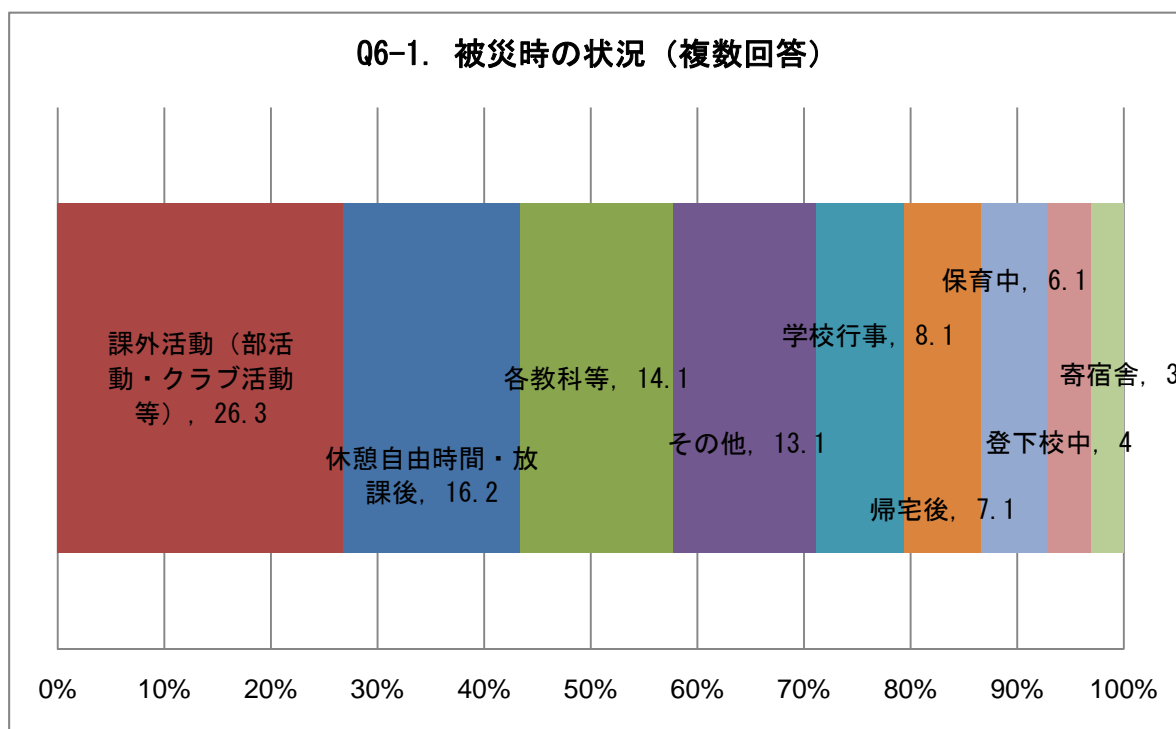
Q5. 被災原因

生徒同士の精神的暴力、教師・指導者からの精神的暴力（いじめ・指導等を含む）がそれぞれ12件で全体の半数を占める。

	度数	パーセント
熱中症	5	10.4
溺水	1	2.1
転落	3	6.3
運動中の負傷・障がい	3	6.3
生徒同士の有形暴力	3	6.3
生徒同士の精神的暴力	12	25.0
教師・指導者からの有形暴力（体罰・わいせつ行為等を含む）	5	10.4
教師・指導者からの精神的暴力（いじめ・指導等を含む）	12	25.0
原因不明	2	4.2
その他	2	4.2
合計	48	100.0

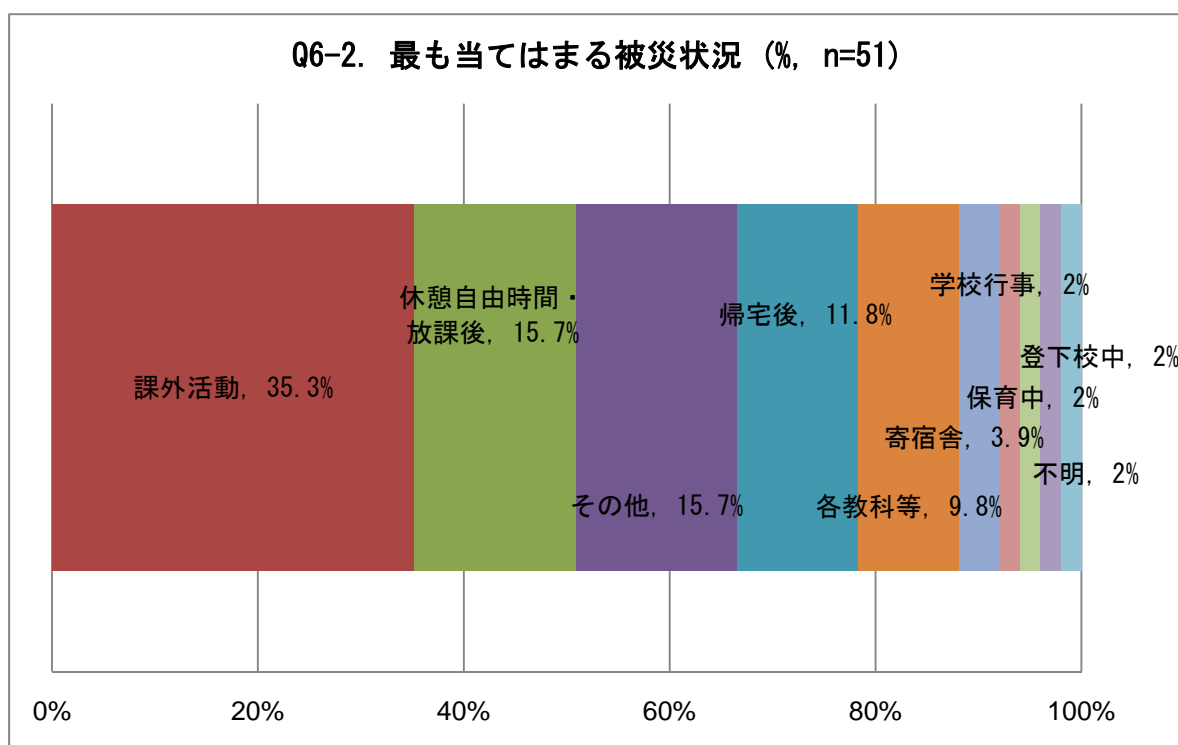
Q6-1. 被災時の状況（複数回答）

	度数	パーセント
課外活動（部活動・クラブ活動等）	26	26.3
休憩自由時間・放課後	16	16.2
各教科等	14	14.1
その他	13	13.1
学校行事	8	8.1
帰宅後	7	7.1
保育中	6	6.1
登下校中	4	4.0
寄宿舍	3	3.0



Q6-2. 最も当てはまる状況

	度数	パーセント
課外活動（部活動・クラブ活動等）	18	35.3
休憩自由時間・放課後	8	15.7
その他	8	15.7
帰宅後	6	11.8
各教科等	5	9.8
寄宿舍	2	3.9
学校行事	1	2.0
保育中	1	2.0
不明	1	2.0
登下校中	1	2.0
合計	51	100.0



事故・事件の主な責任者について

Q7-1. あなたが当該事故・事件に責任があると思うひとは誰ですか。(複数回答)

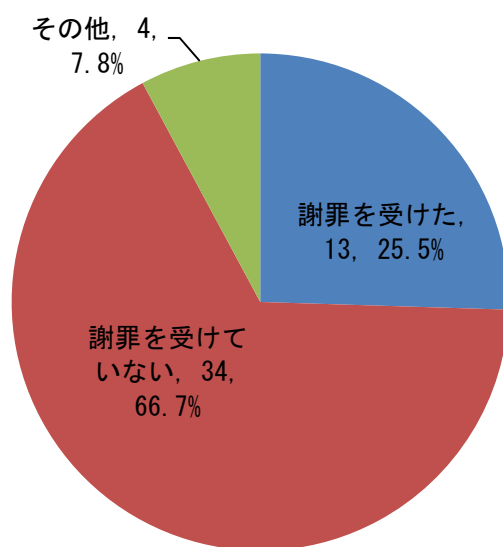
		度数	パーセンテージ
1	学校等の管理職	33	22.1
2	担任教師	29	19.5
3	部活動顧問・指導者	20	13.4
4	同じクラスの児童・生徒	12	8.1
5	学校設置者（自治体や法人など）	12	8.1
6	他の教職員	12	8.1
7	その他	9	6.0
8	同じ部活の児童・生徒	8	5.4
9	教科担当教師	4	2.7
10	他クラスの児童・生徒	3	2.0
11	上級生	3	2.0
12	被災者の保護者	2	1.3
13	被災者本人	1	0.7
14	誰に責任があるかわからない	1	0.7
	合計	149	100.0

Q7-2. 責任があると思われるひとたちから、今までに謝罪を受けましたか。

謝罪を受けていないひとの方が多い（66.7%）。

	度数	パーセント
謝罪を受けた	13	25.5
謝罪を受けていない	34	66.7
その他	4	7.8
合計	51	100.0

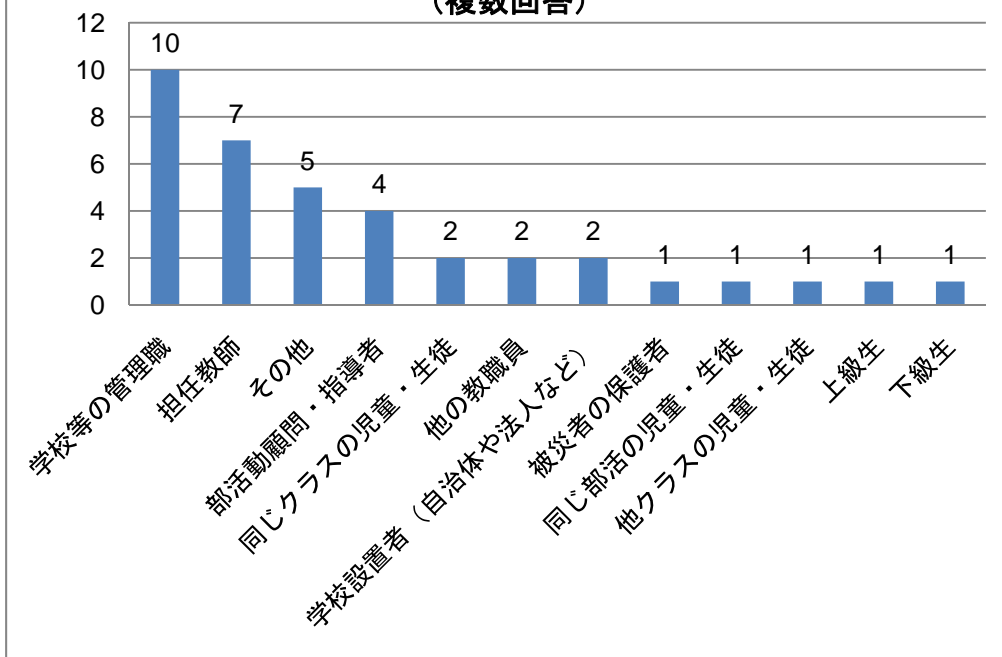
Q7-2. 責任があると思われるひとたちから、
今までに謝罪を受けましたか。(度数, %: n=51)



Q7-3. 謝罪を受けた場合、それは誰からですか。(複数回答)

		度数	パーセンテージ
1	学校等の管理職	10	27.0
2	担任教師	7	18.9
3	その他	5	13.5
4	部活動顧問・指導者	4	10.8
5	同じクラスの児童・生徒	2	5.4
6	他の教職員	2	5.4
7	学校設置者（自治体や法人など）	2	5.4
8	被災者の保護者	1	2.7
9	同じ部活の児童・生徒	1	2.7
10	他クラスの児童・生徒	1	2.7
11	上級生	1	2.7
12	下級生	1	2.7
	合計	37	100.0

Q7-3. 謝罪を受けた場合、それは誰からですか。
(複数回答)

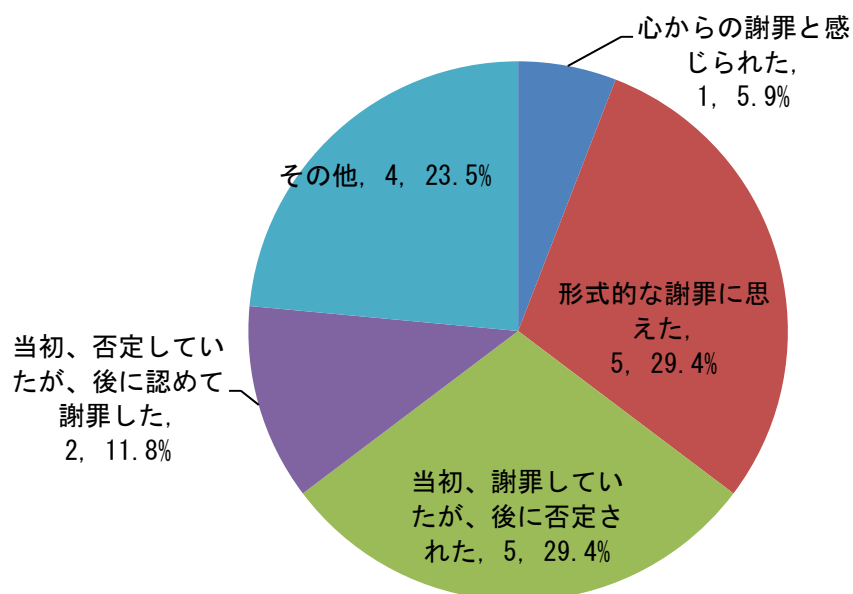


Q7-4. 謝罪を受けた場合、その謝罪はどのようなものでしたか。(謝罪を受けた+その他=17名)

「形式的な謝罪に思えた」と「当初、謝罪していたが、後に否定された」がともに最も多く、両項目で全体の6割を占める。

	度数	パーセント
心からの謝罪と感じられた	1	5.9
形式的な謝罪に思えた	5	29.4
当初、謝罪していたが、後に否定された	5	29.4
当初、否定していたが、後に認めて謝罪した	2	11.8
その他	4	23.5
合計	17	100.0

Q7-4. 謝罪を受けた場合、その謝罪はどのようなものでしたか
(度数, % : n=17)



事故・事件の経緯や詳細について

Q8-1. 一番最初の説明や報告はいつ頃でしたか。

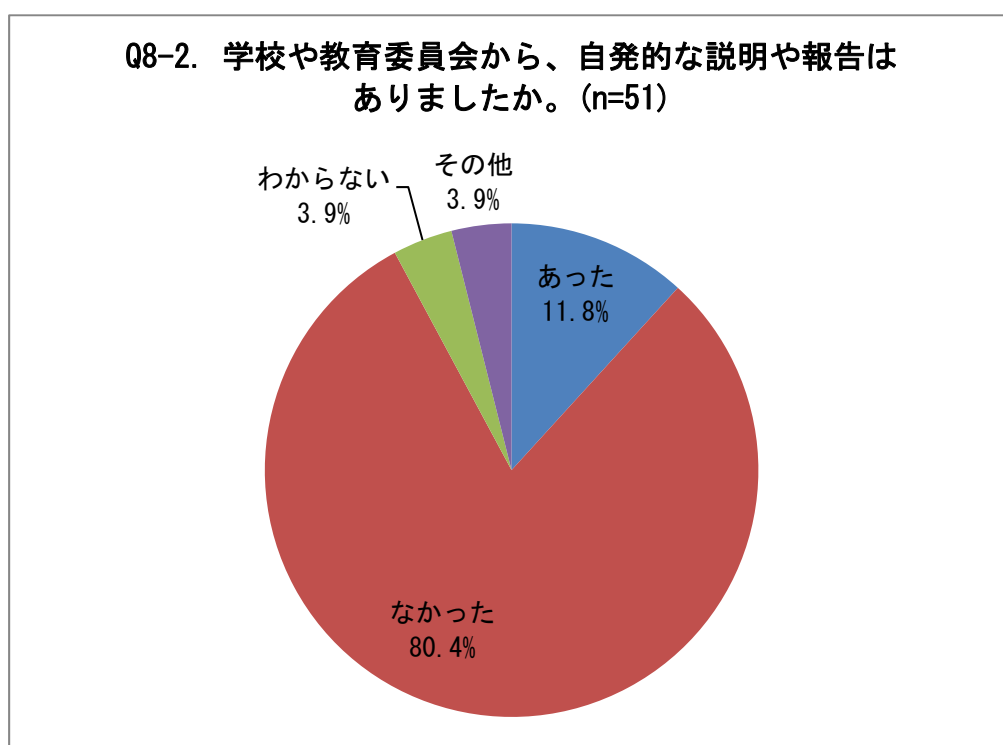
事故・事件の経緯や詳細について、「いまだに説明がない」と答えた人が約3割を占める(14件, 27.5%)。

	度数	パーセント
その日のうち	10	19.6
2~3日以内	4	7.8
一週間以内	8	15.7
一か月以内	5	9.8
一か月以上たってから	9	17.6
よく覚えていない	1	2.0
いまだに説明がない	14	27.5
合計	51	100.0

Q8-2. 学校や教育委員会から、自発的な説明や報告はありましたか。

自発的な説明や報告を受けた人は少なく（6件, 11.8%）、殆どが「なかった」と答えている（41件, 80.4%）。

	度数	パーセント
あった	6	11.8
なかった	41	80.4
わからない	2	3.9
その他	2	3.9
合計	51	100.0



Q8-3. 学校や教育委員会からの面談による説明や報告は計何回くらいありましたか。

説明の回数は「1～3回くらい」が最も多かった（14件, 27.5%）。

	度数	パーセント
1～3回くらい	14	27.5
4～5回くらい	8	15.7
6～10回くらい	9	17.6
11～20回くらい	2	3.9
20回以上	4	7.8
1回もない	12	23.5
覚えていない	2	3.9
合計	51	100.0

Q8-4. 主な説明者は誰ですか（複数回答）

		度数	パーセント
1	学校長	26	32.5%
2	教頭（副校長）	16	20.0%
3	教育委員会の人間	14	17.5%
4	学年主任	7	8.8%
5	クラス担任	7	8.8%
6	部活動顧問・コーチ	4	5.0%
7	他の教師	3	3.8%
8	その他	3	3.8%
	合計	80	100.0%

Q8-5. 学校関係者からの事故や事件についての説明や報告はどのような形でありましたか。（複数回答）

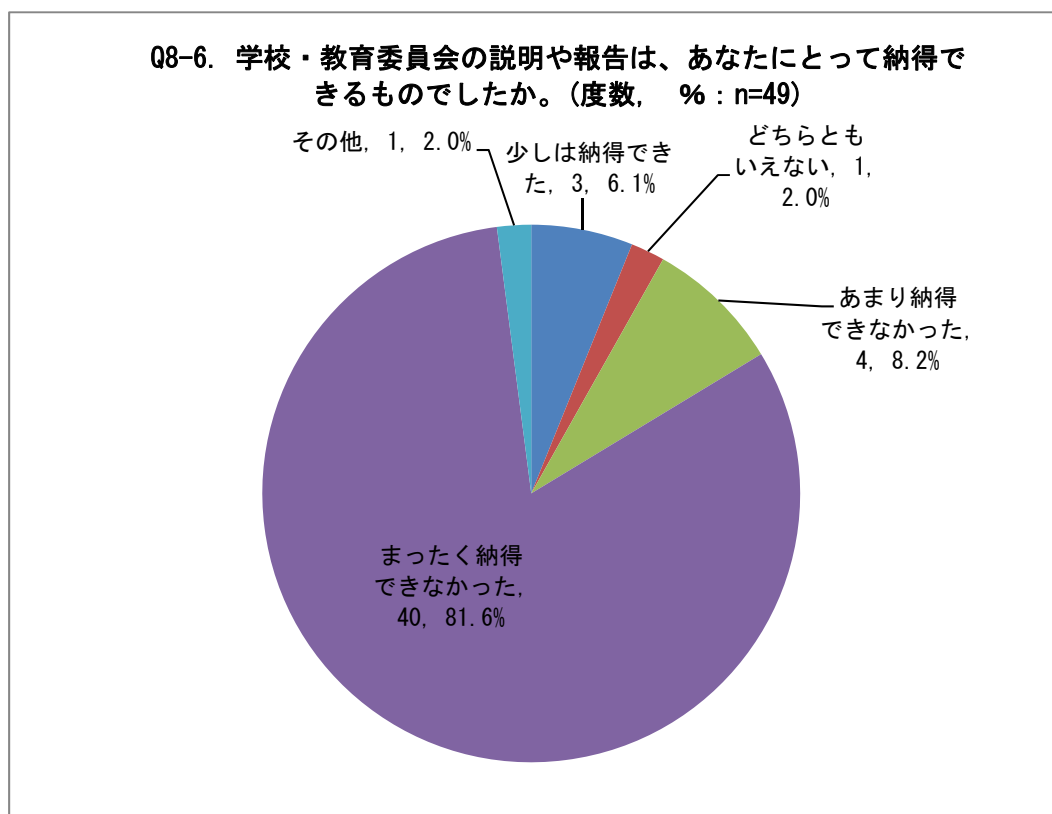
説明・報告形態の上位3位は、「被災者や家族に口頭で」（32件, 25.6%）、「緊急保護者会を開いて全体に」（18件, 14.4%）、「被災者や家族に文書で」（16件, 12.8%）であった。

		度数	パーセント
1	被災者や家族に口頭で	32	25.6%
2	緊急保護者会を開いて全体に	18	14.4%
3	被災者や家族に文書で	16	12.8%
4	学年集会や全校集会で児童生徒に	15	12.0%
5	自分達以外にどのように説明したかわからない	13	10.4%
6	クラスや部活動など関係する保護者を集めて	8	6.4%
7	記者会見を開いてマスメディアに	7	5.6%
8	その他	7	5.6%
9	各クラスで児童生徒に	4	3.2%
10	プリントで児童生徒と保護者に	3	2.4%
11	電話連絡で保護者に	2	1.6%
	合計	125	100.0%

Q8-6. 学校・教育委員会の説明や報告は、あなたにとって納得できるものでしたか。

「まったく納得できなかった」という人が殆どで（40 件, 81.6%）、「あまり納得できなかった」人（4 件, 8.2%）と合わせると約9割の人が納得できていない。

	度数	パーセント
納得できた	0	0
少しは納得できた	3	6.1
どちらともいえない	1	2.0
あまり納得できなかった	4	8.2
まったく納得できなかった	40	81.6
その他	1	2.0
合計	49	100.0



学校や教育委員会の事実調査について

Q9-1. 学校は児童生徒に、事故・事件についてアンケートを実施しましたか。

半数以上が行っていなかった（27件, 52.9%）。

	度数	パーセント
した	13	25.5
直接は関係のない内容で行った	4	7.8
しなかった	27	52.9
不明	7	13.7
合計	51	100.0

Q9-2. 学校はアンケートの回答内容を教えてくれましたか。

アンケート内容を教えてもらえなかった人は6件（31.6%）、内容を見た人は5件（26.3%）であった。

	度数	パーセント
内容を見せた	5	26.3
内容を一部見せた	1	5.3
口頭で説明した	3	15.8
教えてくれなかった	6	31.6
のちに内容を知った	2	10.5
その他	2	10.5
合計	19	100.0

Q9-3. 学校は児童生徒に、事故・事件について作文を書かせましたか。

書かせなかった学校が半数以上である（29件, 59.2%）。

	度数	パーセント
書かせた	6	12.2
直接は関係のない内容で書かせた	5	10.2
書かせなかった	29	59.2
不明	9	18.4
合計	49	100.0

Q9-4. 学校は作文の内容を教えてくださいましたか。

	度数	パーセント
内容を見せた	1	7.7
口頭で説明した	1	7.7
教えてくれなかった	6	46.2
のちに内容を知った	2	15.4
その他	3	23.1
合計	13	100.0

Q9-5. 学校や教育委員会はアンケートや作文のほかにどのような調査をしましたか。(複数回答)

上位3位は、「どのような調査をしたかわからない」(17件, 22.4%)、「知っていそうな児童生徒に聞き取り調査を行った」(15件, 19.7%)、「学校管理職や教育委員会の人間が、関係する教職員に聞き取り調査を行った」(14件, 18.4%)となった。

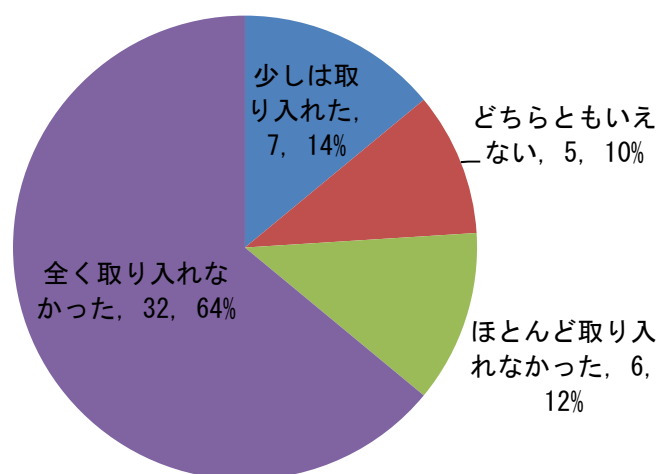
1	どのような事実調査をしたかわからない	17	22.40%
2	知っていそうな児童生徒に聞き取り調査を行った	15	19.70%
3	学校管理職や教育委員会の人間が、関係する教職員に聞き取り調査を行った	14	18.40%
4	調査を一切しなかった	12	15.80%
5	児童生徒に面談調査に行った	7	9.20%
6	教職員や児童生徒による再現を行った	4	5.30%
7	外部の人間による調査チームを立ち上げた	3	3.90%
8	児童生徒に情報の提供を呼びかけた	2	2.60%
9	その他の調査	2	2.60%

Q9-6. 学校・教育委員会は調査するにあたって、被災者や親の意見を取り入れてくれましたか。

「全く取り入れなかった」ケースが最も多く32件(64%)であった。「ほとんど取り入れなかった」(6件, 12%)と合わせると76%のケースで親の意見が取り入れられていなかった。

	度数	パーセント
十分取り入れた	0	0
少しは取り入れた	7	14.0
どちらともいえない	5	10.0
ほとんど取り入れなかった	6	12.0
全く取り入れなかった	32	64.0
合計	50	100.0

Q9-6. 学校・教育委員会は調査にあたって、被災者や親の意見を取り入れてくれましたか。(度数, % : n=50)



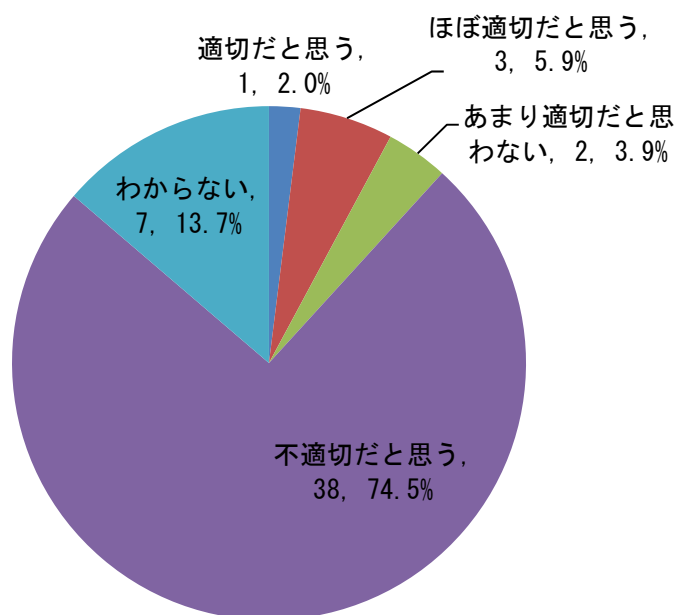
学校・教育委員会の事実調査について

Q10-1. あなたは適切に行われたと思いますか。

「不適切だと思う」と答えた人が殆どである（38件, 74.5%）。

	度数	パーセント
適切だと思う	1	2.0
ほぼ適切だと思う	3	5.9
あまり適切だと思わない	2	3.9
不適切だと思う	38	74.5
わからない	7	13.7
合計	51	100.0

Q10-1. 学校・教育委員会の事実調査は適切に行われたと思いますか（度数, % : n=51）



学校等が作成した事故報告書について

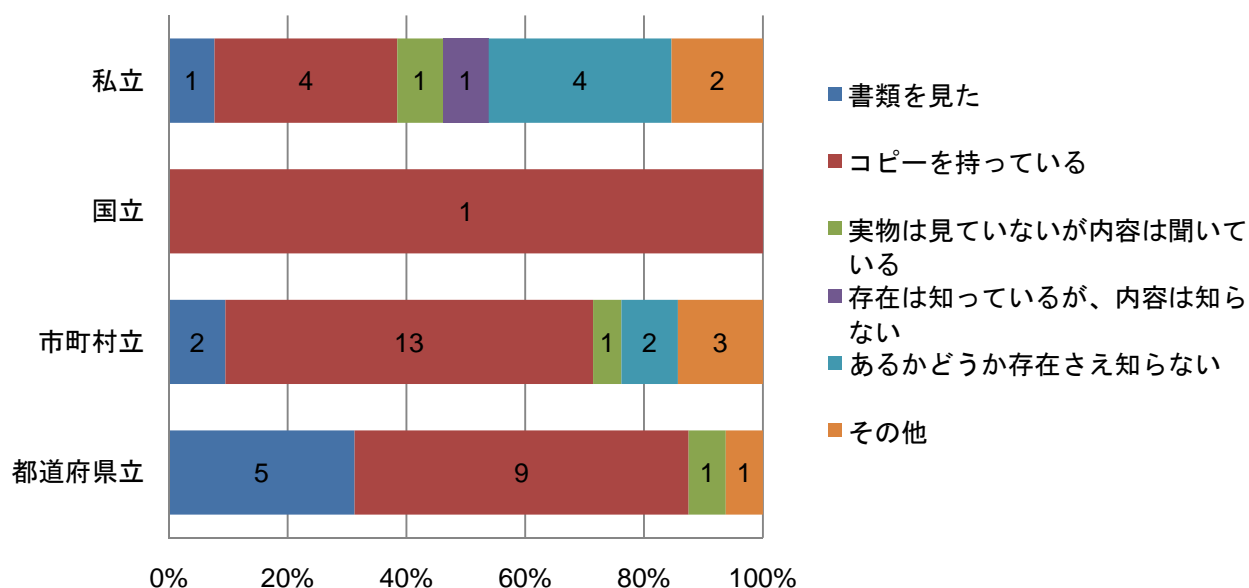
Q11-1. 内容を知っていますか。

	度数	パーセント
書類を見た	8	15.7
コピーを持っている	27	52.9
実物は見えていないが内容は聞いている	3	5.9
存在は知っているが、内容は知らない	1	2.0
あるかどうか存在さえ知らない	6	11.8
その他	6	11.8
合計	51	100.0

管理責任者と報告書内容情報のクロス表

		Q11-1. (事故報告書の) 内容を知っていますか。(単数回答)						合計
		書類を見た	コピーを持っている	実物は見えていないが内容は聞いている	存在は知っているが、内容は知らない	あるかどうか存在さえ知らない	その他	
Q2-1. 管理 責任者	都道府県立	5	9	1	0	0	1	16
	市町村立	2	13	1	0	2	3	21
	国立	0	1	0	0	0	0	1
	私立	1	4	1	1	4	2	13
合計		8	27	3	1	6	6	51

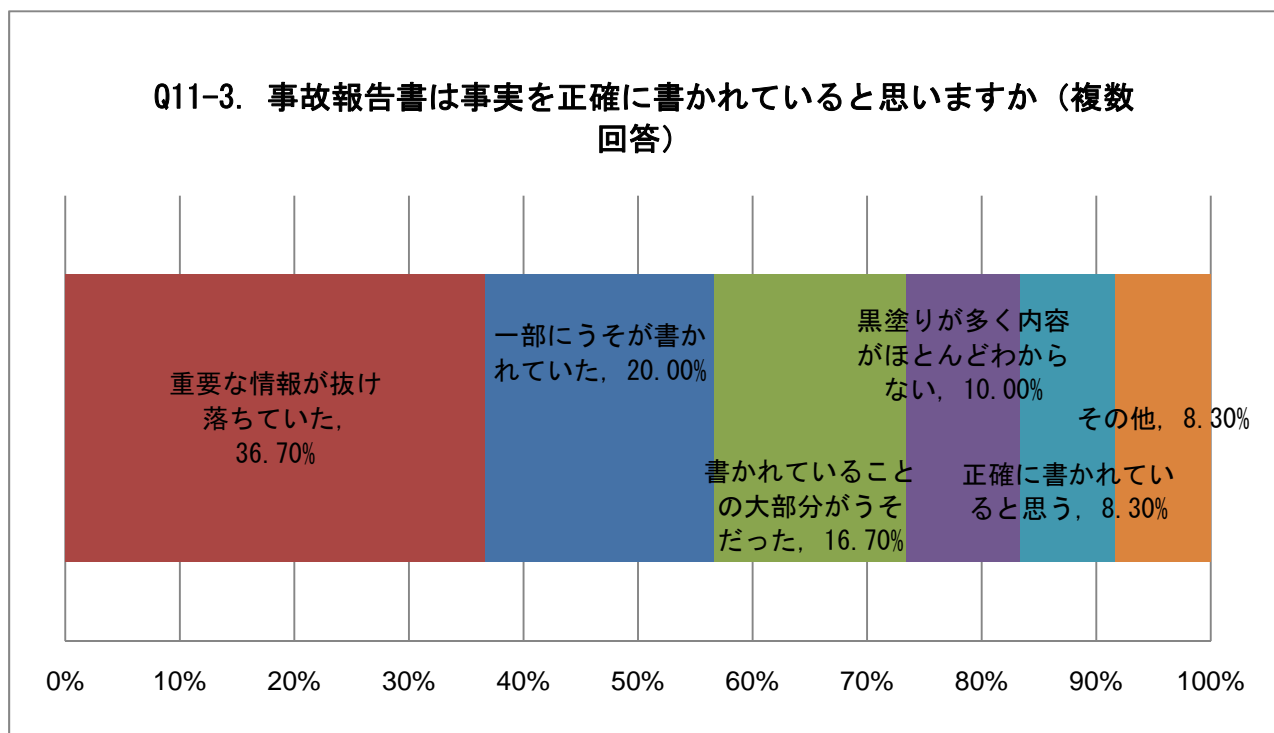
Q11-1. 学校が作成した事故報告書について内容を知っていますか
(管理者別, n=51)



Q11-3. 事故報告書は事実を正確に書かれていると思いますか。（複数回答）

「重要な情報が抜け落ちていた」が最も多く（22人, 36.7%）、次に「一部にうそが書かれていた」（12人, 20%）、「書かれていることの大部分がうそだった」（10件, 16.7%）となっている。

		度数	パーセント
1	重要な情報が抜け落ちていた	22	36.70%
2	一部にうそが書かれていた	12	20.00%
3	書かれていることの大部分がうそだった	10	16.70%
4	黒塗りが多く内容がほとんどわからない	6	10.00%
5	正確に書かれていると思う	5	8.30%
6	その他	5	8.30%
	合計	60	100.00%



文部科学省の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について

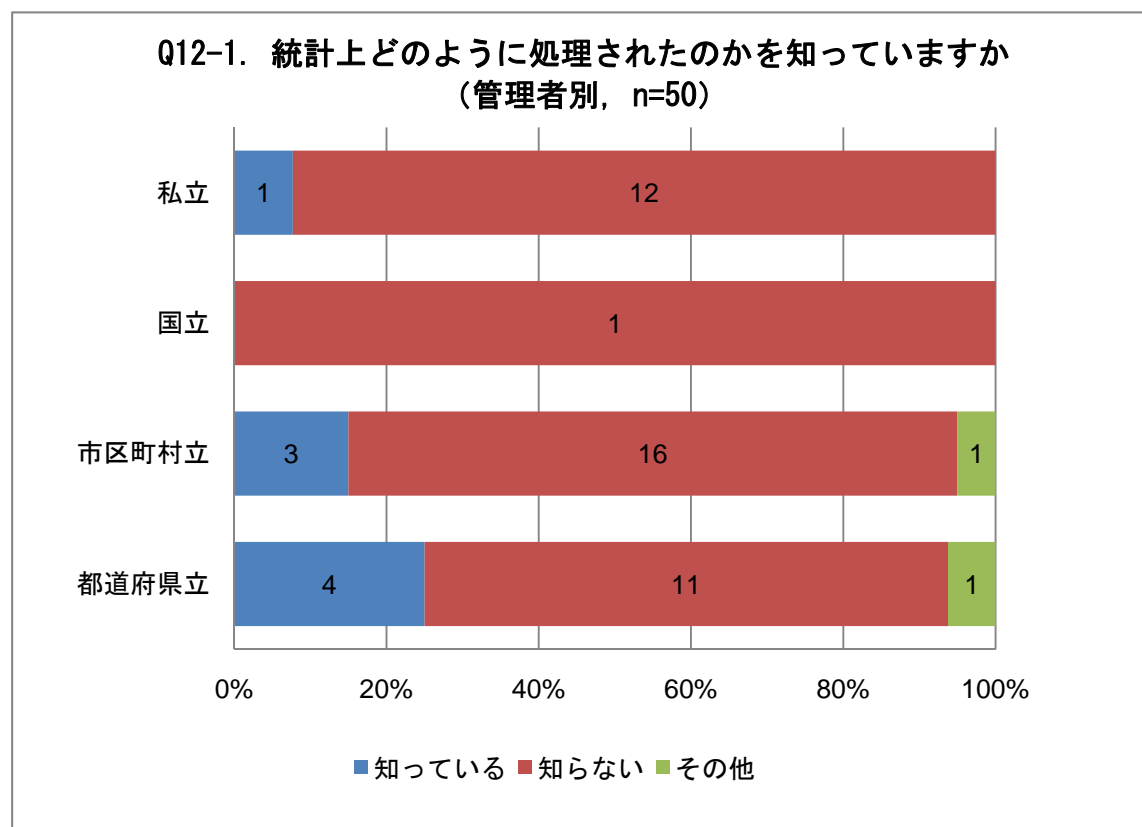
Q12-1. 上記調査の統計上、どのように処理されたかを知っていますか。

調査上でどのように統計処理されたのかについて、知らない人が8割を占める（40件、80%）。

	度数	パーセント
知っている	8	16.0
知らない	40	80.0
その他	2	4.0
合計	50	100.0

管理責任者と統計上処理情報のクロス表

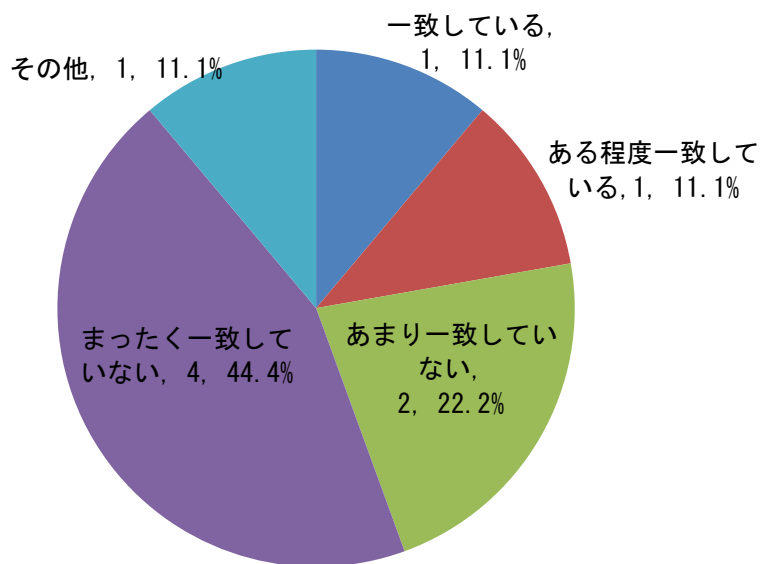
		Q12-1. 文部科学省の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の統計上、どのように処理されたかを知っていますか。（単数回答）			合計
		知っている	知らない	その他	
Q2-1. 管理責任者	都道府県立	4	11	1	16
	市区町村立	3	16	1	20
	国立	0	1	0	1
	私立	1	12	0	13
合計		8	40	2	50



Q12-2. その内容は、あなたが認識している事実や原因と一致していますか。
 「まったく一致していない」と思う人が最も多い（4件, 44.4%）。

	度数	パーセント
一致している	1	11.1
ある程度一致している	1	11.1
あまり一致していない	2	22.2
まったく一致していない	4	44.4
その他	1	11.1
合計	9	100.0

Q12-2. その内容は、あなたが認識している事実や原因と一致していますか（度数, % : n=9）



Q13. 事故調査報告書について、あなたが望むことは何ですか。（複数回答）

		度数	パーセント
1	報告内容に疑問があれば、質問し回答を義務づけること	43	13.10%
2	情報公開制度を使わなくても、被災者や親にコピーを渡すこと	41	12.50%
3	後からでも正しい情報がわかったときに、いつでも訂正できること	40	12.20%
4	教育委員会や保険会社等に報告書を提出する前に、被災者や親に見せること	39	11.90%
5	被災者や親に対して、黒塗りをやめて、全ての情報を開示すること	39	11.90%
6	事故報告書に被災者や親の言い分を載せること	38	11.60%
7	私学も、自治体や教育委員会等に事故報告書の提出を義務付けること	31	9.50%
8	プライバシーに配慮したうえで、誰もが事故報告書の内容を見られるようにすること	30	9.20%
9	事故報告書に加害者の意見や心情を載せること	20	6.10%
10	その他	6	1.80%

当該事故・事件の詳細について

Q14. 事故・事件について、あなたが知りたかったことは何ですか。(複数回答)

		度数	パーセント
1	その時の被災者の様子	37	13.10%
2	その時の教職員の対応	36	12.70%
3	事故・事件に至るまでの経緯	36	12.70%
4	事故・事件が起きた直接の原因	35	12.40%
5	事故・事件の具体的な再発防止策	30	10.60%
6	事故・事件の背景や遠因	27	9.50%
7	加害者・責任者が心から反省しているかどうか	27	9.50%
8	事故・事件は誰に責任があるか	26	9.20%
9	その時の加害者・責任者の心理	25	8.80%
10	その他	3	1.10%
11	知りたかったことは何もない	1	0.40%

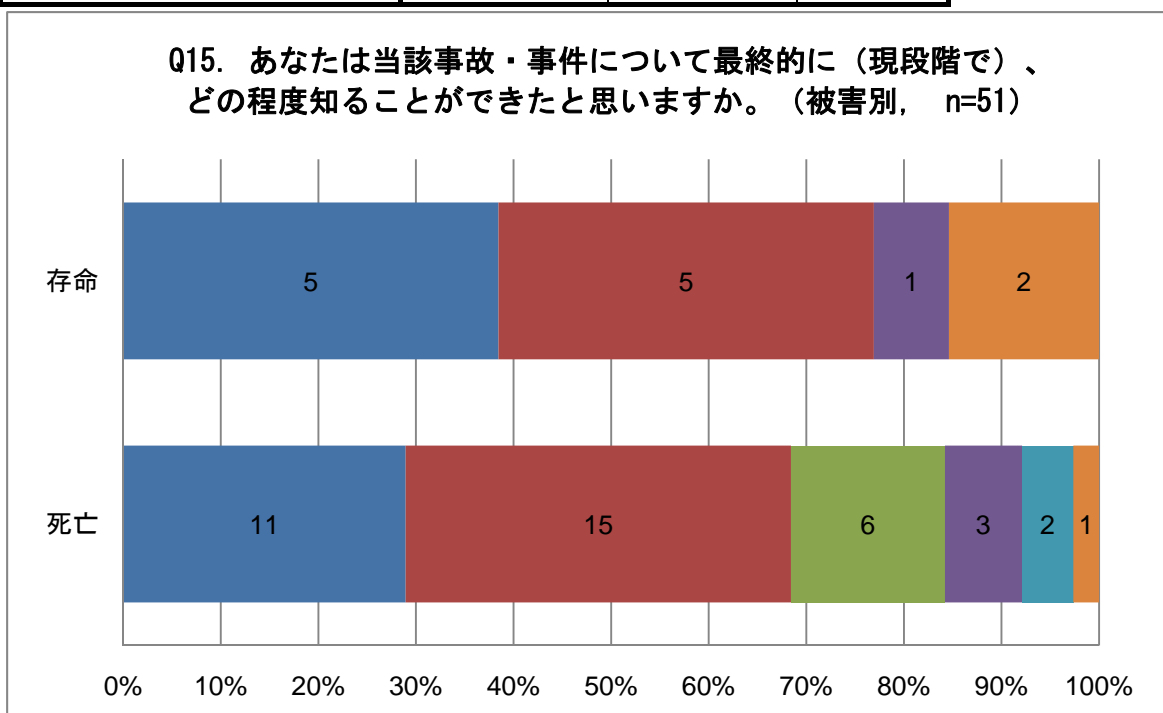
被害別と情報ニーズのクロス表

		被害別		合計
		死亡	存命	
1	その時の被災者の様子	25	12	37
2	その時の教職員の対応	26	10	36
3	事故・事件に至るまでの経緯	26	10	36
4	事故・事件が起きた直接の原因	25	10	35
5	事故・事件の具体的な再発防止策	22	8	30
6	事故・事件の背景や遠因	20	7	27
7	加害者・責任者が心から反省しているかどうか	18	9	27
8	事故・事件は誰に責任があるか	17	9	26
9	その時の加害者・責任者の心理	16	9	25
10	その他	0	3	3
11	知りたかったことは何もない	0	1	1
	合計	38	13	51

Q15. あなたは当該事故・事件について最終的に（現段階で）、どの程度知ることができたと思いますか。
 「少しは知ることができた」と回答した人が最も多く（20件, 39.2%）、「ほとんど知ることができた」人（16件, 31.4%）と合わせると、約7割が知ることが出来たと回答している。

	度数	パーセント
ほとんど知ることができた	16	31.4
少しは知ることができた	20	39.2
ほとんど知ることができなかった	6	11.8
まったく知ることができなかった	4	7.8
わからない	2	3.9
その他	3	5.9
合計	51	100.0

	被害別		合計
	死亡	存命	
ほとんど知ることができた	11	5	16
少しは知ることができた	15	5	20
ほとんど知ることができなかった	6	0	6
まったく知ることができなかった	3	1	4
わからない	2	0	2
その他	1	2	3
合計	38	13	51



Q16-1. あなたは情報をどこから得ましたか。(複数回答)

		度数	パーセント
1	見たり聞いたりした児童生徒の話	32	17.60%
2	他の児童生徒の話	20	11.00%
3	学校からの説明	20	11.00%
4	警察関係者からの説明	14	7.70%
5	被災者本人の話	13	7.10%
6	医療関係者からの説明	12	6.60%
7	情報公開でとった事故報告書以外の書類	11	6.00%
8	教師の個人的な話のなかで	11	6.00%
9	学校の事故報告書	11	6.00%
10	児童生徒のアンケートや作文	9	4.90%
11	その他	9	4.90%
12	マスメディア	8	4.40%
13	教育委員会からの説明	6	3.30%
14	学校等が行った実況見分	4	2.20%
15	調査委員会からの説明	2	1.10%

被害別と情報源のクロス表

		被害別		合計
		死亡	存命	
1	見たり聞いたりした児童生徒の話	26	6	32
2	学校からの説明	16	4	20
3	他の児童生徒の話	14	6	20
4	警察関係者からの説明	10	4	14
5	被災者本人の話	4	9	13
6	医療関係者からの説明	8	4	12
7	教師の個人的な話のなかで	8	3	11
8	学校の事故報告書	8	3	11
9	情報公開でとった事故報告書以外の書類	9	2	11
10	児童生徒のアンケートや作文	8	1	9
11	その他	8	1	9
12	マスメディア	8	0	8
13	教育委員会からの説明	3	3	6
14	学校等が行った実況見分	2	2	4
15	調査委員会からの説明	2	0	2
	合計	38	13	51

Q16-2. 上記のうち、もっとも有効だった情報源上位3つ

	応答数	
	度数	パーセント
被災者本人の話	10	8.4%
学校からの説明	8	6.7%
教育委員会からの説明	2	1.7%
警察関係者からの説明	6	5.0%
医療関係者からの説明	8	6.7%
教師の個人的な話のなかで	8	6.7%
見たり聞いたりした児童生徒の話	29	24.4%
児童生徒のアンケートや作文	7	5.9%
他の児童生徒の話	15	12.6%
学校等が行った実況見分	1	.8%
学校の事故報告書	3	2.5%
マスメディア	6	5.0%
情報公開でとった事故報告書以外の書類	8	6.7%
その他	8	6.7%
合計	119	100.0%

被害別と有効情報源のクロス表

		被害別		合計
		死亡	存命	
1	見たり聞いたりした児童生徒の話	23	6	29
2	他の児童生徒の話	13	2	15
3	被災者本人の話	3	7	10
4	学校からの説明	7	1	8
5	医療関係者からの説明	5	3	8
6	教師の個人的な話のなかで	7	1	8
7	情報公開でとった事故報告書以外の書類	7	1	8
8	その他	8	0	8
9	児童生徒のアンケートや作文	7	0	7
10	警察関係者からの説明	3	3	6
11	マスメディア	6	0	6
12	学校の事故報告書	2	1	3
13	教育委員会からの説明	2	0	2
14	学校等が行った実況見分	1	0	1
	合計	38	12	50

事実を知る上での障害について

Q17-1. 事実を知るうえで、障害になったのは何ですか。（複数回答）

		度数	パーセント
1	学校管理者の拒否や抵抗	46	20.60%
2	関係する教師の拒否や抵抗	33	14.80%
3	関係する児童生徒の保護者の拒否や抵抗	30	13.50%
4	教育委員会の拒否や抵抗	23	10.30%
5	関係する児童生徒の拒否や抵抗	22	9.90%
6	教職員全体の拒否や抵抗	14	6.30%
7	地域住民の批判や誹謗中傷	13	5.80%
8	保護者らの拒否や抵抗	10	4.50%
9	周囲の児童生徒の拒否や抵抗	9	4.00%
10	学校関係者らによる誹謗中傷	8	3.60%
11	外部団体からの圧力	7	3.10%
12	卒業生らの批判や誹謗中傷	5	2.20%
13	その他	3	1.30%

被害別と障害のクロス表①

		被害別		合計
		死亡	存命	
1	学校管理者の拒否や抵抗	33	13	46
2	関係する教師の拒否や抵抗	23	10	33
3	関係する児童生徒の保護者の拒否や抵抗	22	8	30
4	教育委員会の拒否や抵抗	15	8	23
5	関係する児童生徒の拒否や抵抗	13	9	22
6	教職員全体の拒否や抵抗	9	5	14
7	地域住民の批判や誹謗中傷	7	6	13
8	保護者らの拒否や抵抗	6	4	10
9	周囲の児童生徒の拒否や抵抗	6	3	9
10	学校関係者らによる誹謗中傷	5	3	8
11	外部団体からの圧力	4	3	7
12	卒業生らの批判や誹謗中傷	3	2	5
13	その他	3	0	3
	合計	36	13	49

Q17-2. 最も障害になったのは何ですか。

		度数	パーセント
1	学校管理者の拒否や抵抗	28	59.6
2	教育委員会の拒否や抵抗	6	12.8
3	関係する児童生徒の保護者の拒否や抵抗	4	8.5
4	関係する教師の拒否や抵抗	3	6.4
5	関係する児童生徒の拒否や抵抗	2	4.3
6	教職員全体の拒否や抵抗	1	2.1
7	保護者らの拒否や抵抗	1	2.1
8	外部団体からの圧力	1	2.1
9	その他	1	2.1
	合計	47	100.0

被害別と障害のクロス表②

	被害別		合計
	死亡	存命	
学校管理者の拒否や抵抗	20	8	28
教育委員会の拒否や抵抗	3	3	6
関係する児童生徒の保護者の拒否や抵抗	3	1	4
関係する教師の拒否や抵抗	3	0	3
関係する児童生徒の拒否や抵抗	2	0	2
教職員全体の拒否や抵抗	0	1	1
保護者らの拒否や抵抗	1	0	1
外部団体からの圧力	1	0	1
その他	1	0	1
	34	13	47

刑事告訴について

Q18-1. あなたは当該事故・事件について、刑事告訴しましたか。

	度数	パーセント
した	13	25.5
しなかった	35	68.6
検討中	3	5.9
合計	51	100.0

被害別と刑事告訴のクロス表

		被害別		合計
		死亡	存命	
した	度数	9	4	13
	%	17.6%	7.8%	25.5%
しなかった	度数	27	8	35
	%	52.9%	15.7%	68.6%
検討中	度数	2	1	3
	%	3.9%	2.0%	5.9%
合計	度数	38	13	51
	%	74.5%	25.5%	100.0%

民事裁判について

Q19-1. あなたは当該事故・事件について、民事訴訟を起こしましたか。

	度数	パーセント
しなかった	12	23.5
した（現在終わっている）	25	49.0
した（現在係争中）	7	13.7
検討中	7	13.7
合計	51	100.0

被害別と民事訴訟のクロス表

		被害別		合計
		死亡	存命	
しなかった	度数	10	2	12
	%	19.6%	3.9%	23.5%
した（現在終わっている）	度数	17	8	25
	%	33.3%	15.7%	49.0%
した（現在係争中）	度数	5	2	7
	%	9.8%	3.9%	13.7%
検討中	度数	6	1	7
	%	11.8%	2.0%	13.7%
合計	度数	38	13	51
	%	74.5%	25.5%	100.0%

Q19-2. 裁判をしなかった主な理由は何ですか。（複数回答）

		度数	パーセント
1	きょうだいへの影響を考えて	7	17.5%
2	精神的に裁判ができる状態になかった	7	17.5%
3	裁判をしても無駄だと思った	7	17.5%
4	裁判をしても勝てないと弁護士に言われた	4	10.0%
5	経済的に難しかった	3	7.5%
6	家族や親せきの反対にあった	3	7.5%
7	裁判ができるだけの証拠を揃えることができなかった	3	7.5%
8	引き受けてくれる弁護士が見つからなかった	2	5.0%
9	仕事や家庭への影響を考えて	2	5.0%
10	裁判をする必要を感じなかった。	1	2.5%
11	学校や加害者が責任を認めて謝罪したので	1	2.5%
		40	100.0%

Q19-3. 裁判をした（検討している）主な理由は何ですか。（複数回答）

		度数	パーセント
1	被災者の名誉を回復したかった	26	17.3%
2	原因を究明し、再発防止に生かしたかった	26	17.3%
3	何があったか事実を知りたかった	25	16.7%
4	責任者・加害者から謝罪がなかったから	25	16.7%
5	誰に責任があるのかを明らかにしたかった	20	13.3%
6	世間に、当該事故・事件のことを知ってほしかった	18	12.0%
7	その他	6	4.0%
8	被災者の治療や今後の生活等にあてる保証金・賠償金がほしかった	4	2.7%
		150	100%

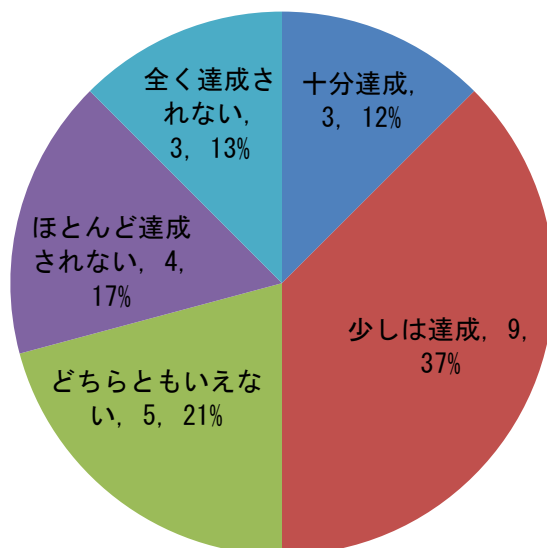
Q19-4. 裁判をするにあたって、とくに困難だったことは何ですか。（複数回答）

		度数	パーセント
1	証拠集めに苦労した	21	15.9%
2	弁護士探し	16	12.1%
3	弁護士との意思疎通	15	11.4%
4	証言をしてくれるひとがいなかった	13	9.8%
5	裁判をすることで精神的に不安定になった	13	9.8%
6	裁判準備で忙しかった	12	9.1%
7	裁判にかかる費用	9	6.8%
8	誹謗・中傷を受けた	9	6.8%
9	支援してくれるひとがいなかった	7	5.3%
10	仕事に影響した	7	5.3%
11	その他	7	5.3%
12	マスメディアに騒がれた	2	1.5%
13	家族の理解	1	0.8%
		132	100.0%

Q19-8. 裁判の結果、あなたの目的は達成されましたか。

	度数	パーセント
十分達成	3	12.5
少しは達成	9	37.5
どちらともいえない	5	20.8
ほとんど達成されない	4	16.7
全く達成されない	3	12.5
合計	24	100.0

Q19-8. 裁判の結果、あなたの目標は達成されましたか。
(度数, % : n=24)



外部機関関与について

Q20-1. 当該事故・事件に外部の調査機関の関与はありましたか。

	度数	パーセント
あった	16	31.4
なかった	30	58.8
わからない	5	9.8
合計	51	100.0

Q20-2. 関与があった場合、どのような調査機関でしたか。(複数回答)

		応答数	
		度数	パーセント
1	学校・教育委員会が依頼した学識経験者・有識者を中心とする調査機関	5	27.8%
2	その他	4	22.2%
3	法務省管轄の調査機関	3	16.7%
4	弁護士会の調査機関	3	16.7%
5	被災者が依頼したオンブズパーソン	3	16.7%
	合計	18	100.0%

Q20-3. あなたは外部機関による調査やその結果に満足していますか。

		満足	まあ満足	少し不満	大いに不満	合計
学校・教育委員会が依頼した学識経験者・有識者を中心とする調査機関	度数	0	2	1	3	6
	%	0.0%	12.5%	6.3%	18.8%	37.5%
法務省管轄の調査機関	度数	0	1	0	2	3
	%	0.0%	6.3%	0.0%	12.5%	18.8%
弁護士会の調査機関	度数	0	0	1	2	3
	%	0.0%	0.0%	6.3%	12.5%	18.8%
被災者が依頼したオンブズパーソン	度数	1	0	0	1	2
	%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	12.5%
その他	度数	1	0	0	1	2
	%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	12.5%
合計	度数	2	3	2	9	16
	%	12.5%	18.8%	12.5%	56.3%	100.0%

Q20-5. 第三者による調査委員会や調査機関をつくるとしたら、あなたにとって重要なことは何ですか。
(複数回答)

		度数	パーセント
1	学校や教育委員会からだけでなく、被災者からも調査依頼ができること	41	11.40%
2	委員会メンバーの中立性	40	11.10%
3	被災者や親の意見を取り入れること	40	11.10%
4	被災者に情報開示すること	40	11.10%
5	教師への聴き取り（権限）	38	10.60%
6	児童生徒への聴き取り（権限）	38	10.60%
7	調査経緯や結論に対する質問や不服申し立てができること	32	8.90%
8	再発防止の提言をすること	30	8.40%
9	社会に情報開示すること	28	7.80%
10	結論に強制力があること	24	6.70%
11	その他	8	2.20%

Q20-6. あなたは第三者による調査委員会や調査機関を必要だと思いますか。

	度数	パーセント
必要	23	46.0
条件が整えば必要	15	30.0
どちらともいえない	3	6.0
条件が整わないのであれば、 ないほうがよい	5	10.0
不必要	1	2.0
わからない	2	4.0
その他	1	2.0
合計	50	100.0

Q20-6. あなたは第三者機関による調査委員会や調査機関を必要だと思いますか。(度数, % : n=50)

